

# 研究発表要旨

## 「短大に於ける音楽リズム指導 に関する一考察」に関する要旨

柿沢 充

短大保育科の音楽リズム指導目標をどこにおくべきかについて前々から考えていたが、いろいろの事情があって伝統的な傾向から仲々脱皮出来なかった。然しやっと二年前頃から私の態度は決った。それは学生に創作力を持たせる指導法をすることだと思っている。既成の教材の練習をすることで可とした時代は終わったと思う。創作力さえあれば毎日、生活を共にしている幼児の教材は自然と作ることが出来ると思うからである。現在短大に於ける音楽リズムの授業は一ケ年で三十時間位の授業があって、この間に成る可く効果を高めようと思っている訳である。そのためにはどの様な方法を工夫したらよいかと考及した結果舞踊学会で発表したような土台をまとめたのである。私は思います、最も大切なことは実技指導の前に、好ましい学生の受講態度を理解させて教師と素直に協調して授業を展開することである。学生が受身の学習をして満足した過去の学習態度から発見的工夫的積極的な自発的学習態度の堅持を常とする指導をするのである。これは拘束の反対の自由で個々人の能力に沿った活動をすることになる。さて学年の前期に於ける授業内容について述べるならば、従来学校ダンスと称されたステップとモダン・ダンスに於けるボディー訓練法との連用による動きの訓練をすることに主力を注ぎ、前期末には学習をした課程をまとめたダンス教材を、教師が編って身体の有機的訓練をし更に鍛練をするのである。そして後期はその力を基盤として創作を目標とする学習指導を行うのである。舞踊は身体による空間構成をすることであるから自身の身体で感情の要求する形態を現出する技術を身につけることが大切である。そこで初歩的な空間構成をするために必要な諸要素を逐次に訓練する過程に入るのである。要素とは別に図的指示をした枠内のイ、ロ、ハ、ニ、ホの様なものである。又美的な空間構成をするために、美的条件としてシンメトリーやコントラストその他表と裏、具象と抽象、緊張と弛緩、コントラクションとリリース、その他の知識と実技を研究させると共に、それらの動きを気持のよい動きのリズムに乗せる工夫をすることの大切さを重視する習慣を体得させることも大切なことである。

舞踊とは「人体を使って美的条件にかなったリズムミカルな自然運動により思想や感情を創造的に表現する芸術である」と思っている私はこの論理に帰結するように凡ての学習訓練を統括するように力を注いで授業をしている。この様な舞踊活動の訓練は創作力を養う目的であるから、プロの舞踊家でも、幼児の指導者でもその要旨は同じでよいと思っている。然し舞踊家は舞踊活動が終生の仕事であるが、短大の学生は教育者になるのであるから舞踊活動の根本的要旨を理解して浅く経験して幼児をリードする能力をつけることを自覚させたい。

### 指導目標

- 一 創作力を養うことを目標とする  
音楽リズムの営み 一

### 知的指導のねらい

1. 保育指導者となる自覚を持たせる。
2. 実力をつけるため自発的な工夫を考案させる。
3. 一般保育と音楽リズムの運用を考案させる。
4. 文部省の指示する「音楽リズム指導書」を熟読させる。

### 技術的指導のねらい

1. 技術は範囲を広く且つ浅く止む。
2. 短いフレーズの作り方に馴れさせる。
3. 創作技術の指導と練習 一（後期の部）

